

芳野よしのに遊ぶあそぶ（頼らい杏坪きょうへい）

萬人買醉攪芳叢 感慨誰能與我同  
恨殺殘紅飛向北 延元陵上落花風

萬人ばんじん 醉すいを 買こうて 芳叢ほうそうを 攪みだす

感慨かんがい 誰たれか 能よく 我われと 同おなじき

恨殺こんさいす 殘紅ざんこうの 飛とんで 北きたに 向むかうを

延元えんげん 陵上りょうじょう 落花らっかの 風かせ

解説 杏坪五十八歳、甥山陽の案内で吉野に遊び、後醍醐天皇の陵に詣で、そのときの感懐を述べたもの。

語釈 ※買醉攪酒を買って飲み、酔うこと。※芳叢＝美しい草はら。  
※攪：みだす。※感慨＝身にしみて感じること。※恨殺＝うらみに  
思うこと。※殘紅＝散りぎわの花。※向北＝後醍醐天皇は南朝を開  
いたが、崩御の際に「玉骨はたとひ南山の苔に埋るとも、魂魄こんぱくは常  
に北闕ほっけつの天を望まんと思ふ」と仰せられた、そこで、帝の延元陵も  
北面して建てられている。※延元陵＝後醍醐天皇の塔尾陵とうびりょうのこと、  
吉野の如意輪寺の奥にある。

通釈 吉野の花見に訪れた多くの人々は、酒を飲んで酔い、美しい  
草はらを踏み荒している。この吉野で、後醍醐帝を偲んで、自分と  
同じ感慨を抱く者は、この中に誰がいるだろう。まことに恨めしい  
のは、散り残っている花が後醍醐天皇の御心を汲んでか、その御陵  
の上から吹く風につれて、北の京都の方向へと飛ぶのを見ることが  
ある。